

栃木工業高等学校の取組

【特色】「県立高校未来創造推進事業」の地域資源活用プロジェクトの一つであった「テクニカル・リペア活動」を引き継ぎ、平成28年度より工業高校の専門性を生かし、テクノボランティアの名称で活動を継続している。また、「高校生未来の職業人育成事業」として、栃木市内小学生に技術指導を行い、世代間交流を含むキャリア教育を行っている。

取組事例

○「課題研究」の授業(3年生)

・テクノボランティアとして、3年生の「課題研究」の授業において、栃木市内小中学校に出向き依頼品の修理等に取り組んでいる。今年度の依頼校数は14校であった。

○出前授業

・栃木市内中学校を対象に、本校職員及び生徒が出前授業を実施している。機械科・電気科・電子科・情報技術科(電子情報科)の四つの科ごとに授業を用意し、中学校に内容を選んでもらう形式をとっている。どの授業も、各科の特色が出たものになっている。

・自校ブランド「こどもパソコン」(SkyBerryJAM)を用いたプログラミング出前授業を、栃木市内の小中学校を中心に展開している。3年生の課題研究の授業や電算機部の活動と関連付けて行っている。

・栃木市教育委員会主催事業の小学生向け講座に協力をしている。ここ数年は情報技術科が協力して、「こどもパソコン」を用いたプログラミング講座を開講している。

○制作・修理活動

・うずまの竹明かり作成では、現在は有志の生徒の参加も加わり、活動を行っている。

・車いす修理ボランティアとして、栃木市内施設で修理活動を行っている。

○その他の活動

・栃木特別支援学校との交流会(福祉活動)を行っている。

・とちぎ高校生蔵部への協力をしたり、参加(有志)したりしている。

地域活動による効果・成果

生徒の変容

- 生徒の自己肯定感や自己有用感の醸成ができ、生徒自身の大きな成長につながった。
- 福祉活動では、障害のある方々の支援に自分たちの技術が役に立つことから、生徒の関心度が高く、持続可能な地域活動となっている。

学校への効果

- ESD(持続可能な開発のための教育)の実践につながった。また、地域(全国)からの学校信頼度アップやイメージアップができ、学校ブランド力や知名度が向上した。

地域活動がうまくいっている要因

- ▶ 高校の専門性を生かした活動を必要とし、受け入れてくれる小・中学校等とのつながりを大切にすることで、持続可能な活動となっている。また、活動範囲を栃木市内としていることで、無理なく適切な活動を続けることができている。
- ▶ 栃木市教委生涯学習課の支援により、生徒の活動の場を提供できている。

活動しやすい環境整備のポイント

- ・地域活動が一部教員だけの業務にならないように、活動の目標を共有した上で、各科の特色を出した出前授業を展開している。
- ・学校全体で取組内容を把握することで、より組織だった業務運営がしやすくなる。
- ・生徒が技術を生かして地域活動で役立つことにより、地域の関心が学校に向くとともに、生徒も自己肯定感を高めることができるので、魅力ある学校づくりと地域連携の一体化につながる。